平成30年度第２学期終業式式辞　　平成30年12月21日

「災」の字が選ばれる時だからこそ

校長　原　田　尚　昭

終業式を迎え、平成30年度の２学期も今日で一つの区切りを迎えることとなりました。３年生にとっては進路決定、２年生にとっては中堅学年としての自覚と責任、そして１年生にとっては、高校生活のリズムを漸く身につけて来たという意味で、それぞれにとって非常に大事な学期であったと思います。明日から冬休みに入りますが、これまでの道のりを振り返りつつ、「来年こそは、或いは３学期こそは是非ともこれを実現したい！」という強い想いを持って新年を迎えて頂きたいと思います。

さて、皆さんもご存知の通り、今年の漢字に「災」が選ばれました。「災害」の災、「わざわい」の災である訳ですが、２月の北陸豪雪、６月の大阪北部地震、７月の西日本豪雨、９月の北海道地震、そして台風21号による大変な被害など、本当に何が起こるかわからないといった状況が立て続けに起こった年でした。特に、7月の豪雨災害では地元宍粟でも大変な被害が生じたが故に、皆さんにも募金活動に協力してもらったり、波賀町・一宮町での災害ボランティア活動に行ってもらいました。現場に足を運んで初めて大変な状況がわかったという人もいたと思いますが、他人事ではなく、常に自分のこととしてとらえることが如何に大事であるかということが身に染みてわかった年であったと思います。

その意味で、丁度一週間前に本校で実施した「総合防災訓練・防災体験活動」は私たちにとって非常に重要な意味を持っていると思います。3年生が取り組んだ応急処置と煙ハウス体験、生活創造科が中心となって実施した２年生の非常食・防災食体験、１年生による土嚢づくりとロープワーク体験、及び森林環境科学科で初めて取り組んだ木造仮設住宅建築体験、そして生徒会が千人鍋を使って豚汁の炊き出しを行ったこと、これら全ての活動は、将来いざと言う時に必ずや生きてくる貴重な体験となったと思います。つまり、高校生ともなれば体力面でも大人とほぼ同等となり、また、災害時に何が出来るか、何をすべきかという知識や知恵が身に付いてきているので十分地域社会に貢献することが出来るわけです。山崎断層の上に位置している学校であるからこそ、災害時に何が出来るかということを常に考えておくことは、本校の使命でもあるのです。

山崎高校は、数年前から生活創造科を中心に防災体験活動に取り組んできました。その成果が評価されて、今年、昨年に続き２年連続で「ぼうさい甲子園」の「ぼうさい大賞」を受賞することとなりました。全国で数多くの実践がある中で、高校の部の全国優勝ということであり、大変名誉なことで、皆さんと共に喜びたいと思います。表彰式は年が明けて１月13日に神戸で行われますので、その伝達はまた３学期にこの場で行います。要は、先輩が地道に続けて来た活動をしっかりと受け継いで、これからも途絶えることなく発展させ、皆さんの後に続く後輩にもしっかりと手渡して続けていくということが大事です。さすれば、地域の防災活動の学びの拠点としての位置付けもさらに明確になって来るのではないでしょうか。

さあ、明日から冬休み。受験本番に向かう３年生の諸君にとってはこれからが本当の正念場。既に進路が決まった人は友達を応援することが肝要。進路決定は正に団体戦なのです。２年生は年が明ければすぐに修学旅行で、それが終われば進路まっしぐらです。１年生はもう実質的に２年生になるんだという意識を持って新年を迎えて下さい。どうぞ良いお年を。